

いなばのしろうさぎ

ふくなが たけひこ 文

1

いずもの国からおとなりのいなばのくにへ行くとしゅうの海岸を、八十人の兄弟のかみさまが、行列を作って歩いていました。

2

するとうさぎが一ぴき、はだかでふるえていました。八十人の兄弟は、
「海の水で体をあらって、それからかぜにふかれてよくかわかせば、そのうち毛が生えてくるさ。」

3

と言って、みんなわらいながらそばを通っていきました。
うさぎが言われたとおりにすると、しお水がかわいてくるにつれて、風が当たると、体中ひりひりしてきました。うさぎはいたくてたまらず、ころげながらおいおいにいていました。

4

八十人の兄弟のいちばんおしまいに、おおくにぬしがいました。
「うさぎくん、どうしたんだい？ わけを話してごらん。」

5

と、おおくにぬしがやさしくたずねました。
うさぎは赤い目をぱちぱちさせて、
「あなたは親切なかたです。じつは、こういうわけなんですよ。」
と、話しはじめました。

ぼくは、むこうに見えるおきのしみにすんでいるうさぎです。なんとかし

て、海をわたってこの国へ来たいものだと思っていたんですが、ぼく、およげないんですよ。すると、めいあんがうかびました。わにのやつをだましてやろうと考えたんです。

ぼくはわにに言ってやりました。

「わにくん、このしまにいるぼくたちうさぎと、きみたち海にいるわにと、どっちが数が多いと思う？」

「さあ、わからないね。」

と、わにが答えました。

「きみたちは、海の間をずうっと一列にならんでごらん。そうしたら、ぼくがきみたちのせなかをふんで、一つ、二つ、と数えてみよう。ぼくは数えるのはうまいんだ。」

ぼくがそういうと、わにはしばらく考えてから、

「めいあんだ。やってみよう。」

と、答えました。

わにたちは、みんなあつまってきて、むこうのしまからここの海岸まで、海上にならびました。

そこでぼくは、はじめのわにのせなかにのって、

「一つ。」

も一つぴよんととびのって、

「二つ。」

も一つぴよんととびのって、

「三つ。」

と、数えながら、ぴよんぴよんきしの方へ近づいてきました。そしてもうだ
いじょうぶというところで、思わずさけんでしまいました。

「ぼくはこっちの国へ来たかったんだ。ほうら、まんまときみたちをだまして
やったぞ!」

ところがね、そこはまだいちばんおしまいの方にのせなかの上、あつという
まに、そいつがぼくの毛皮をはぎとってしまったのです。

せつかくりくちについたのに、ぼくははだかでふるえていました。

そこに、あなたの兄弟の八十人のかみさまが通りかかったのです。

おおくにぬしは、うさぎの話を聞いて言いました。

「それはひどいめにあったね。ではこうしなさい。よく体をあらい、がまの
花の黄色いかふんを地面にまいてその上をぐるぐるころけてごらん。」

うさぎが教えられたとおりにやってみると、たちまち毛皮のあるもとの

体にもどりました。

——これが、いなばのしろいうさぎです。

※いずもの国・・・今のしまねけんの東部。

いなばの国・・・今のとっとりけんの東部。

おおくにぬし・・・いずもの国のかみさまの 名前。

わに・・・さめ

▼『古事記』には、いろいろな かみさまのお話が のつて います。むかしから 大切に 伝えられてきた、ほかの お話も 読んでみましょう。